

令和7年度 学校評価報告書

丹波篠山市立 大山小学校

校長 山 本 真

1 学校教育目標等

やさしく かしこく たくましく
～豊かなつながりを通して、夢を持って生きる子を育む～

2 今年度の重点目標

安全で安心して学べる教育環境づくりに取り組む。

- ①安心できる学級づくりや一人一人の個性を生かした計画的な学級経営に努める。
- ②いじめや問題行動等の生徒指導上の課題が見られる児童について、迅速で確実な職員の情報共有を行い、未然防止・早期発見・早期対応に組織的に取り組む。
- ③全教職員による丁寧な児童理解に努め、家庭やスクールカウンセラー等の専門家・専門機関と積極的に連携し、気になる児童の早期発見とコンサルテーションに努める。

3 学校自己評価結果

(達成状況…A：よく達成できた B：達成できた C：やや課題が残る D：改善を要する)

分野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
教育課程・学習指導	学力向上	B	学力調査の結果を詳細に分析し、学力向上に向けた学年ごとの課題を共有するとともに、個々の課題にも着目した指導に取り組んだ。
	児童の主体性を育む教育活動の推進	B	学級活動や児童会活動、異学年交流などの自治的活動を積極的に展開し、児童の主体性を育むための取組を計画的に推進した。
生徒指導	組織的な取組による情報共有と早期対応	B	いじめアンケートや個人懇談の実施、生徒指導委員会・学団会議の定期開催等を通じ、多角的な児童理解と教職員間の共通理解を深化させた。組織的な体制を構築する中で、諸課題への早期発見および迅速かつ適切な対応を推進した。
	スクールカウンセラー(SC) スクールソーシャルワーカー(SSWr)等との連携強化	B	組織的な対応による環境調整を図るため、SSWrを交えたケース会議を継続的に開催した。SCによる児童観察や面談の知見を指導方法の工夫改善に反映し、組織的な支援体制の充実を図った。
特別支援教育	個に応じた指導支援の充実	B	特別支援教育委員会を中心に個別の指導計画を継続的に検討し、指導内容の最適化を推進した。あわせて、関係機関との緊密な連携に基づき、教育相談等の成果を個々の実態に応じたきめ細やかな指導へと繋げた。
保護者や地域との連携	安全・安心な学校づくり	B	P T Aや学校運営協議会と協働した安全点検の実施により、危険箇所の早期把握と早期対応を推進した。併せて、地域ボランティアによる見守り活動や付き添い下校などの協力を得て、多層的な視点から児童の安全確保が推進できた。

	地域とともにある学校づくり	A	「大山っ子応援団」等、校区内の豊かな人材を外部講師として活用することで、体験的・専門的な学びの充実を図った。地域のアドバイザーとの連携のもと、地域資源を教育課程に取り入れた「ふるさと教育カリキュラム」を構築し、郷土愛を育む教育を推進した。
--	---------------	---	---

4 学校関係者評価結果

(1) 重点目標についての評価

<ul style="list-style-type: none"> ・今後も地域・学校・家庭が緊密に連携し、目指すべき子どもの姿を共有していく。安全の確保と健やかな成長を支えるパートナーとして、課題解決に向けた協議のみならず、活動を共にする実効性のある協働を大切にしていきたい。

(2) 総合的な評価（意見・感想）

<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと学習：大人が率先して山や自然に関わり、地域の魅力を次世代へ継承する姿勢が重要である。 ・読書習慣の確立：ICT活用と心身の成長を両立させ、学校での読書時間確保や図書館活用を推進する。大人の活字離れ解消も課題。 ・自己肯定感の育成：安心して主体的に学べる環境を整え、多様な体験を通じて豊かな心と自信をつけ、いじめを跳ね返す力を育む。 ・挨拶の励行：地域との繋がりをさらに創出し、自発的に元気な挨拶ができる豊かな人間関係を育てる。 ・登下校の在り方：集団登校による社会性の育成を重視。過度な車送迎を控え、規則正しい生活習慣と準備を啓発する。

(3) 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
教育課程・学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・“主体的に学ぶ”は昔から言われている言葉で性格にもよるが「やらされている感」ではなく、文字通り自分事として感じられる環境づくりをさらに進めていく必要がある。 ・「自分の考えを自分の言葉で伝える」ためには、安心して言葉にできる環境づくりが大切であり、少人数の良さを生かしながら、できるだけそういう機会をたくさん作って経験させる。 ・スマホやタブレットからの与えられる情報だけでなく、考える力を育む読書の機会をさらに創出していく取組が必要である。あわせてICTの有効な活用も進める必要がある。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつの様子を見てみると、自分から元気にできている子とできていない子の二極化がみられる。できていると認識している子でも客観的に自分を見つめ直し、自分から元気に挨拶ができる大人からの働きかけがさらに必要である。 ・生活の中で当たり前のことを大切に、自己肯定感を高めていくことで、いやなことから逃げずに跳ね返す心のたくましさを培うことにつながる。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人を大切にされた指導のもとで子どもたちが成長している。これからも実態把握に努め、一人一人に寄り添った指導をとなるよう取組を進めてほしい。
保護者や地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・大山小学校の強みは、子どもたちが地域の行事に参加したり、地域の方と交流したりできることである。今後もそういう良さを生かしていけるように取り組んでいきたい。 ・子どもたちが、地域を通していろいろな人とのかかわりの中で見方・考え方が広げながら学べる大山でありたい。 ・小規模校ならではの家族のような雰囲気大切にしたい。 ・児童数が減っていく中でいろいろと工夫改善が必要となってくるので、チームワークが大切である。将来は統廃合についての議論もされるよう希望します。

